

第22期火災予防審議会地震対策部会第6回小部会開催結果概要

- 1 開催日時
平成28年8月4日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 場所
芝消防署 4階 小会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員（5名、敬称省略、五十音順）
10 糸井川栄一、伊村則子、加藤孝明、坂本大輔、廣井悠
 - (2) 東京消防庁関係者
防災部参事兼防災安全課長、震災対策課長、総合防災教育係長、防災調査係長、防災調査係員4名
- 4 議事
 - (1) 地震対策部会第5回小部会の開催結果概要について
 - (2) 審議事項
 - ア 本審議における検討の流れについて
 - イ PDCAサイクルをイメージした防火防災訓練の進め方
 - ウ 実地検証の対象となる消防署の絞り込み案について
 - 20 エ 防火防災訓練検証内容案について
- 5 配布資料
 - 地小資料6-1 第22期火災予防審議会地震対策部会第5回小部会開催結果概要（案）
 - 地小資料6-2 本審議における検討の流れ
 - 地小資料6-3 PDCAサイクルをイメージした防火防災訓練の進め方
 - 地小資料6-4 実施検証の対象となる消防署の絞り込み案について
 - 地小資料6-5 防火防災訓練検証内容案
 - 参考資料 消防署担当者がCHECK段階で用いる評価シート案
- 6 議事概要
 - (1) 開会
 - 30 (2) 議事
 - ア 地震対策部会第5回小部会の開催結果概要について
事務局より地小資料6-1について説明された。
 - イ 本審議における検討の流れについて
事務局より地小資料6-2について説明された。
[議長]
実際に、検証を実施しながら考えるというスタイルになると思うが、1次検証については今日の議論が重要になってくる。
 - ウ PDCAサイクルをイメージした防火防災訓練の進め方
事務局より地小資料6-3について説明された。
40 [議長]
“PDCA”の意味は、成長するとか広がっていく仕組みを作っていきたい、という思いを“PDCA”の言葉に込めている。訓練の時と次に繋げていくための自己評価、そして東京消防庁として消防署間の情報を共有していくことによりさらにステップアップをしていく、この3点が含

まれているということか。

[事務局]

お見込みのとおり。

[議長]

前回の審議との関係を確認すると、5ページの④の「訓練計画（PLAN）を立案する」という中の、どのように実施するかという部分で、自治体や区役所と連携するという体制が非常に重要だと思う。

[委員]

10

3ページの3「防火防災訓練の計画」、4「防火防災訓練の実行過程」、5「防火防災訓練の評価」は消防署の担当者が行うのか。

[事務局]

その予定である。

[委員]

ターゲットの分布の分析やセグメントのニーズについても同様に、消防署の担当者が実施するのか。

[事務局]

今回の検証では、事務局から対象消防署に情報を提供する予定である。

[委員]

20

訓練の現状についてもリストを作るのか。

[事務局]

昨年度、消防署ごとに実施した訓練の一覧があるので、それに加えて消防署が把握している部分を活用していきたい。

[委員]

この辺りの枠組みは環境整備として消防署でやるのか。実地検証でも行うのか。

[事務局]

最終的に、消防署等で活用を図る際にこちらで全てを整備して渡すのかどうかについては未定である。参考となる資料については震災対策課から提供していきたいと考えている。

[委員]

30

今までは、ターゲットの分布についてはアンケート全体の分布を考えていたが、将来的には地域ごとの分布を改めて分けるということか。今回の検証は代表的な「子育て世代」とか「単身世帯」とか、地域によってはそういった人たちしか居ないという所があるが、そういった所はさらにセグメントが分布するような環境を与えるのか、それともこちらでセグメントを設定してあげるのか、どのようにするつもりなのか。

[事務局]

未定ではあるが、事務局で把握したセグメントでこれだけのボリュームがあるということを示すことができるので、これらについては参考資料として渡すことができると考えている。検証において消防署側から異なったセグメントに提案したいという要望があれば、その都度分析して提案したいと考えている。

[議長]

40

少なくとも今まで漫然と行ってきた訓練に対してきちんとターゲットを絞り込めるような環境を作っていくことが大事である、ということが答申書に書かれてくるという方向性になる。

訓練の内容を計画する際、様々な種類があると思われる。例えば、単に意識を高めたいと

いう訓練もあるであろうし、きちんと技術を身に着けるといいう訓練もあるし、状況判断を身に着けるといいう訓練もあると思う。こういったカテゴリー分けを消防署側で既に実施しているのか。

[事務局]

消防署で実施している訓練は、関心を高めるといいうものではなく、例えば、消火、救急といった分け方はあるが、関心を高めるといいうものではない。大きな枠の訓練のジャンルで分けている。

[議長]

10 実際、消防署の訓練企画者になったとすると、例えば、今回は関心を高めるといいうことに重点を置き、次はスキルを高め、さらに次のステップとして自分のやってきたことを周囲に広報できるような仕掛けをしようといいうプログラムを作って、それを3年周期で実施して広げていくようなやり方もあるのではないかと思う。仮にこのようなやり方があるとすると、今言った内容がこの検証の中で抜け落ちているという感じがする。そういう明確な役割分担といいうものはないのか。毎年、訓練の明確な役割を変えることでマンネリ化を防ぐことができるのではないか。

[事務局]

一つの訓練に全てを詰め込んでしまっている感じになっている。そのような分け方に特化して考えていくことも重要になると思われる。

[委員]

20 防災館のシアターはDVDなどを持って行って出前ではできないのか。関心を高めるといいう意味では、典型的な大震災が発生した際に遭遇するシチュエーションが具体的にイメージできる。イメージできていない方が多いので、10分程度の映像を見てもらった後にスキルアップの訓練を行ってみるとかはどうか。

[委員]

アニメーションは非常に評判が良い。子供向けに作ったものだと思うが、防災教育を実施している側からすると、あれは良くできている。ストーリーも非常に良い。

[庁内関係者]

30 動画の件では、小学生向けの「マイホームワーク」といいう東京消防庁が制作したものを防災館で放映しているが、それを一般の訓練で放映するのは全く問題がない。さらに中高生向け、成人向けの東日本大震災に関する3種類を活用している。市販されている幼児向けの動画なども消防署に配布している。動画を活用した訓練の実施は可能である。室内で行う座談会や、児童総合防災教育や生徒向けには動画を活用しているが、屋外だと鑑賞する環境がないためにあまり活用されていない。

[委員]

動機付けをその場で行って、その後に訓練を行うとやる気になって満足することができると思う。また、色々な非常食があり年々改善されているので、そういったものの味見をしてみようとか、サンプルを渡すとかなどによって、興味を持ってもらうことができるのではないかと思う。

[委員]

40 訓練の評価が難しいと思う。今回は10ptの方を20ptにすることが目的なので動機付けといいうのがポイントになると思うが、しかし満足度が高まれば地域防災力が高まるというわけではないと思う。ただ動機付けとして、満足度だけではなく客観的に「再度訓練に参加してくれるかどうか」と、「災害時に対応する能力を高められた」といいう評価はやるべき。

表3-2の評価は訓練対象者に評価をしてもらって、一方で訓練計画者は計画評価を客観的に評価するような答えがあったほうが良いような気がする。それなりに辛い訓練でないという意味がないのではないか。今回は対象ではないかもしれないが20pt以上の対象者に最終的に展開するようにできれば良いのではないか。

[事務局]

例えば、テストの様なものを実施し何人中の何人ができるかという、客観的な指標とかななるのか。

[委員]

そういった指標でも良いであろうし、本来であればリピーターの数になると思う。

10 [委員]

厳密に行うのであれば、テストなども訓練前と訓練後で同じものを行う必要があるが、そこまでのものは負担が大きくなるので難しいかもしれない。

[委員]

ビデオを見せたり、食べ物を食べたり、講演会に参加したりすれば満足度は上がるのかもしれないが、そこで満足して終わってしまうパターンが一番良くない気がする。

[議長]

20

ニーズ対応型になってしまうのはやはり良くない。喜んでもらうためにニーズに対応することも必要だが、それと併せて訓練参加者に最終的にどういった状態になってもらいたいということが非常に重要である。両方を睨んでやっているということが、今は不十分である。最終的にどういった地域になれば良いのかを描いておく必要がある。例えば、関心をもっている人の割合を100%とした場合の60%を目標にするとか、実際に火災を消すことができる基礎的なスキルをもっている人が全体の1割とか2割位ができる社会にするとか、後は防災の重要性を説いたり、あるいは消火器の使い方を教えられる人を全体の5%位にしたりするなど、こういった状態に今後10年間くらいでやっていくという目標を掲げていくと、来年はここにターゲットを絞ったり、こんな訓練をやったりするなど自然な発想になる気がする。

[委員]

30

住民自身が何をしたら良いのかということを手を自らに問いかけて、それをアクティブに消防に相談に来て訓練をやりたいということや町会または自治会にそういった取り組みをしたいという機運を作るといった形にもっていくことはできないのか。結局、消防が働きかけないと動かないということではなくて、住民側から消防に働きかけてくるという状態にするのが最終的な目標な気がする。

[議長]

中期的な目標と長期的な目標があって、いずれにしろ標準的にはある一定の目標があり、さらにその先に理想があって、自分たちの所はどういった状態なのかという確認ができて、訓練を実施した結果、現在の状況が改善でき、次はここだと考えられる環境にする必要がある。

[委員]

40

この後の審議にも出てくるかもしれないが、この概念的に書かれているPDCAサイクルを最終的な答申に向けて、具体的にどうしていくのかということは、ある程度詰まってきたのか。アナウンスも含め、具体的に訓練をして評価をしていく素案はあるのか。

[事務局]

素案は入っており、現在、消防署と協議を始めた段階で、その中で消防署側から意見も出

てきている所もいくつかはあるが、具体的なところまでは話が始まっていない。

[議長]

最終的な答申のイメージはどうなっているのか。

[事務局]

今回の資料の中には含まれていない。

必要になるのはチェックシートだと思われる。これまでに消防署では自分たちで実施した訓練を検証するという事をしてこなかった。

[委員]

10

チェックシートを作成したというだけの答申ではなく、作成したチェックシートをもとに実際に訓練を実施し、チェックシートそのもののチェックや作成し直しも含め、今回の一連の作業の中で PDCA サイクルをどのように実施するのかというマニュアルを作成していく、その中にチェックシートが入ってくるのではないかと。

[議長]

2 ページの図 3 - 1 のイメージを具体的にどう進めていくのかを答申書に書いていただきたい。

[委員]

そこに、例示として消防署で実施した内容を書いておけば良い。

[委員]

20

例として実施した内容を拡張していく上で、これから協力してもらおう 3 つの消防署で今までやってきた単発の訓練や過去の実績を一度 PDCA サイクルのモデルに当てはめて記載する必要があるのではないかと。また、やる予定はあるのか。これから実施する内容はこのイメージに当てはめて取り組み、検証ができるか、感触をつかむためにも過去の訓練にも当てはめ、データベースを作成してから、今回の検証を行ったほうが良いと思う。

[事務局]

消防署に確認を取らないと分からない点もあるが、基本的に消防署で行われているものは町会側から“いつ”やりますという内容を受けたものだけであって、PDCA の“D”の部分だけである。当然、“C A”の無いものが毎年行われている状態である。

[委員]

30

“P”だけでも“A”の所を考える、“C”はやらない、“A”で考えたもので次の“P”にもっていけばいい、“C”ばかりでも良いから、せっかく 3 つの消防署で行うのだから、次のプランニングを考えるとときに“D”の所を改善してやったほうが良い。事例収集で構わない。

[事務局]

3 つの消防署で 1 次検証を行う際に PDCA のどの部分を見て行けば良いのかということを探っていきたい。そのため、3 つの消防署で計 6 パターンの訓練が終わった段階で、ある程度のもので出来ると思われる。その形をもってその後、別の消防署で実施して事例の収集が出来ればよいのではないかと考えている。最初の 3 消防署で枠組みを作っていければとも思っている。

[委員]

40

作り上げていく部分で、過去の事例も併せて入れ込んでいくことで良いものができる。
エ 実地検証の対象となる消防署の絞り込み案について

事務局から地小資料 6 - 4 について説明された。

[議長]

資料6-4の全体について、訓練ターゲットの状況が整っている3つ消防署で実施するというのでよいのか。今回の検証においては、特に理由なく3つの消防署を選択するというのでよいのではないか。答申後は全ての消防署で、それぞれが訓練の対象となるターゲットを決めて検討し実施していくことになる。各消防署にはそれぞれの地域特性があるために各管内の地域特性を確認すると、例えば、成城消防署であればマンションなどの共同住宅の居住者をターゲットとして行こうとした際、そのための分析をした結果、共同住宅が良いのではないか、また王子消防署でも未就学児同居世帯をターゲットにして行こうとした際に同様の分析をした結果で実施していこう、というロジックになるのではないか。それとは別に、資料6-4のような東京全体のマクロな分析が参考資料として添付されてくる形になる。資料としては、実地検証となる消防署は最初から決まっていて、その消防署でターゲットをどのように絞り込んでいくのかという資料を作成するべきではないか。

10

例えば、東京全体の分析を通して杉並消防署では“ここ”をターゲットにして下さいとこちら側から指示をするのであれば、この資料構成でも構わない。

[事務局]

ケーススタディとなってしまっている部分がある。本来であれば、各消防署でターゲットを決めて、そのための分析を行い、協議をして決めていくべきであると考えている。しかし今回はセグメント側から資料を作成してしまっている。

[議長]

それでも構わないのではないか。ただし、資料の作成は、例えば、成城消防署において管内の分析をした結果、共同住宅居住世帯や子育て世帯、別の層もそれなりにボリュームがあり、今まではどの層もカバーしきれてこなかったために今回は共同住宅を対象に訓練を実施する、というようにしてはどうだろうか。また同様に、王子消防署でも分析をした結果でメインとなるターゲットを絞り込んでいくという形になっていくと思う。

20

[事務局]

本資料ではマクロな視点で消防署の決め打ちを行ってしまった。消防署側の管内特性を分析して、管内にあるセグメントに分けていくべきであった。

[議長]

セグメントも資料のように一つではなく複数も種類出てくるはずである。そこで今回は、複数あるうちの“この部分”を対象とするという形になる。

30

さらにその観点からすると、成城消防署は共同住宅居住者がターゲットになるかどうか疑問が残る。むしろ、成城消防署管内は富裕層の戸建住宅多いイメージがある。

[事務局]

その通りである。業務的な影響もあり、円滑に検証ができる署という点を重視して分析した結果このようになってしまった。2次検証では、時間をかけて共同住宅が多い所で実施したいと考えている。

[議長]

円滑に検証するのであれば共同住宅が良いのではないかと、成城消防署から要望があったのか。

[事務局]

40

そういうわけではなく、話の中で成城消防署には共同住宅をお願いしたいという流れになった。またその前に、王子消防署では子育て世代を対象にしてもらいたいというのがあった。

[議長]

資料を確認すると深川消防署の方が多様な気がするが。

[事務局]

お見込みのとおり。

[委員]

23区側の立場の人間で感覚的な話をさせてもらうと、成城という場所は担税力がある方が住んでおり、意識が高く、一般的な要因だけではない属性の影響が強いのではないかと思う。そのために、これをモデルと提示されてもいかなものかと感じる。また、王子消防署管内においても、未就学児が増加または多い理由は共同住宅の開発が進み増えているからであり、複数のセグメントが重なり合って現れているので、それを上手く分けられるのか疑問に思う。

10

[事務局]

切り分け方は訓練内容を着目点として、子供に着目しているのか、建物側に着目しているのかという点で切り分けることになると思う。共通の部分として、防災の意識を高めるという点は両方から出てくるとは思うが、訓練内容の部分で変えていく必要があると考えている。

[議長]

異なるアプローチから結果的に同じターゲットとなることを指摘されているが、多少重なっている程度でも構わないというスタンスであれば、今のままでも構わないと思う。中身が同じになってしまうのは問題だが、アプローチが違うターゲットであれば、中身も違ってくるはずである。ただターゲットが重なる部分があるということ意識さえしておけばいいのではないか。

20

[委員]

かなり高いと思われる。本当の都心部を除いて、臨海部及び周辺部で子供増えている要因は集合住宅の開発によるものであるという感覚である。

[事務局]

両方のセグメントが混じり合うところから実施する必要があると感じている。検証として重視する場合と分析から得られるものを重視した場合を比較すると、消防署の実状や地域の実状を勘案した上で選択すると考えているため、その点については留意したいと考えている。

[委員]

成城消防署ではすでに動き出しているのか。

[事務局]

30

動き出している部分はある。ただし、2次検証の候補として杉並や中野、超高層の可能性はあるが品川を考えている。まだ丁目単位の確認は行っておらず、こういった形態の建物が多いかはこれから確認する予定である。

[議長]

超高層は特殊な形態なため、はずして考えた方がよい。

[事務局]

一般的にイメージされるマンションを考えている。

[議長]

成城消防署ならむしろ60代同居世帯なのではないか。富裕層の60代が居住していそうな気がするが。

40

[委員]

共同住宅は分譲及び賃貸のどちらを想定されているのか。

[事務局]

まだ打合せの段階だが、おそらく分譲住宅である。

[委員]

分譲共同住宅は、入居時期が近いが同時に買った方が多い、購入する層も同様で、さらに同じように年齢を重ねていく。常に居住者が変わっていく賃貸住宅と分譲住宅では、意識が違うのではないかと思う。どちらか一方を対象としたほうがいいのではないかと思う。

[事務局]

その点については考慮していきたいと思う。

[議長]

賃貸マンション居住者はどの程度いるのか。割合としては分譲の方が多いのか。

[委員]

10 都営住宅や低所得者向けの住宅を除くと、高い割合ではない。都心のレジデンスと呼ばれる高級マンション以外は賃貸マンションが増えているわけでもない。そういう場所でこそコミュニティや結びつきを維持していく方法を考慮していく必要がある。

[議長]

分譲や賃貸といった内容も重要だが、今回の検討事項は東京消防庁として訓練が行き届いていないメジャーな層に対して働きかけをしていこうということであるため、分譲の共同住宅で検討していけばいいのではないか。

[事務局]

ボリュームがどの程度あるのか調査をする。

[議長]

20 全体のボリュームもだが、各消防署がどう認識しているかが重要である。各消防署の地域特性として、どうなっているのかを確認する必要がある。但し、管内のマンションの殆どが賃貸マンションなら、賃貸マンションを狙って実施するのもよい。

[委員]

議論をすればするほど、消防署の職員でセグメントの抽出をするのは困難であるような気がする。基礎データと示すものは、10 p tの方が管内の“こういう所に住むこういう人”というデータになるはずである。10 p t人口の特性を示すものを抽出する仕方や、或いは30 p tや40 p tを対象とした高度な訓練を求めている方は“こういう人”という意味決定を支援できるような仕組みを今後作成できるように、今まで議論してきた内容を積み上げていくべきである。

30

[委員]

こういったデータベースを都全体や各消防署単位で整備しておくべき。

[議長]

データベースを整備した上で、それら資料をどう読み取っていくのかというのをケーススタディで実施して、ある署のデータを基に分析した結果、ターゲットはこの層に、他の署ではこの層にという形でターゲットを各署で絞り込んでいけるようにしていく、という話である。

[事務局]

40 このようなアウトプットを想定しながら考えていくと、例えば、王子消防署で検証すると決めたのであれば、王子消防署の管内特性として各セグメントがどのように構成されているのか分析をし、セグメントごとの訓練ケースを想定していくことが報告書の役割となっていく。

[事務局]

各消防署と協議をする中で、指摘いただいた内容を示しながら“P”となる部分に盛り込

んでいきたい。

[議長]

P 5 の図 4 - 2 の共同住宅居住世帯のカバー率はどのように決定しているのか。

[事務局]

大体ではあるが年代ごとの割合から、推測してプロットしている。

[議長]

これを確認すると、子供の半分くらいかそれ以下が共同住宅に居住して、子供と同居して
いような年代は共同住宅の居住割合が高い、ということは子供の居ない30代、40代、5
0代が多くいるようにとることができる。

10 [委員]

ディンクス又は単身世帯が多いということではないか。

[議長]

1世帯あたりの子供数が少ないか「0」の方が多ということになる。出生率が低いとい
うことか。

[事務局]

大体とはいえ、年代ごとのデータに基づいて作成しているためこのような結果となる。詳
細に提示することも可能だが、大きく傾向が変わることはないと思われる。

[議長]

承知した。

20 全体としては各資料の構成の変更と必要な部分の資料の追加をお願いしたい。

オ 防火防災訓練検証内容案

事務局より地小資料6-5について説明された。

[議長]

検証内容案だが、本日大まかに決めて、細かい部分は調査研究委員会で詰めていく形でよ
ろしいか。

[事務局]

お見込みのとおり。

[議長]

30 最終的な答申のイメージはターゲットを各消防署のデータから決めて、ターゲットに対し
ての企画案を考える。企画案は、このようなロジックを使って考えるとよいものが出てくる
イメージになると思う。今回の資料はアイディアに依存しているようで弱い。最低限押さえ
ておかなければならないポイントというのが、昨年度のアンケート結果から出てきているは
ず。

企画案のアウトプットに至るロジックや根拠、情報をセットにして示すとよい。答申後に
資料を見た消防署も理解しやすいのではないか。

[議長]

最低限このツボは押さえしておかなければならないポイントを示して、今回は自分のアイデ
ィアを加えてこうなりましたという示し方をしたほうがよいと思う。

[議長]

40 逆に根拠がないと消防署の人がわからなくなってしまう可能性がある。

[委員]

イメージとしては、今ここでやっている作業がそのままマニュアルのケースとして使える
ような根拠を示せるといい。

[議長]

冒頭に言った話と繋がるが、訓練内容のところでこの訓練で何を達成するのかといった目標がない。

[事務局]

どういう目標があって、だからこの人たちにはこうなって欲しい、それを実現するためには、こういうデータがあるからこのような訓練をするというプロセスがないから思いついただけの羅列になってしまっている。

[議長]

10

潜在的には、プロセスはあると思う。東京消防庁として、最終的な目標がいくつかあって、その目標に合わせた訓練内容があり、そのうちある程度ニーズに応えられるような工夫をしていくという流れがあると思う。

目標設定に関しては、アンケート結果からだけでは出てこないと思うので東京消防庁として、こうあるべきだというのが必要になる。

[庁内関係者]

東京消防庁では防災教育で目標を定めている。未就学児から高校生までは具体的に意識や技術の面で目標を謳ってはいる。大人になると明確な目標はない。当庁が担っている分野は限定されているので、消火器、避難行動、応急手当、救出救助などになっている。

[委員]

20

学習指導要領では、防災教育は謳われている。学校の先生方は、学習指導要領の目標に則って実施しているので、そことの整合性はとったほうがよいかもしれない。

[委員]

「未就学児の親を対象とした訓練」と「親と子供を別々に行う訓練」と「親と子供一緒にした訓練」の訓練内容の記述自体は一緒になっているが、対象によって訓練は異なってくると思う。消防職員は、その違いを理解できているのか。具体的にどのように実践しているのかあったほうがよいかもしれない。

[委員]

検証するのであれば、シナリオで検証するよりも一つの避難訓練や防災講演などのポイントポイントで検証していくべき。どこを検証していきたいのか。

[事務局]

30

消防署と具体的に検討進めていくべきだが、今回は広義的な案として資料に記載させていただいた。今後、消防署と協議してポイントを絞っていく予定である。

カ 消防署担当者が CHECK 段階で用いる評価シート案

事務局より参考資料について説明された。

[議長]

地小資料 6-3 の 8 ページと対応している。

[委員]

参加者側の評価としては、集計結果がでてくるのか。パーセントということは、「Yes」か「No」でしか回答してないということか。

[事務局]

40

お見込みのとおり。

[委員]

「ニーズの合致」項目などは難しいかもしれない。一つしか訓練を実施しているわけではないかもしれない。

[議長]

評価シートを訓練担当者が埋めて、全庁的に共有されて、評価シートを記載した人にも何かしらフィードバックがある。全庁的に見ても経験が蓄積されるということか。

[事務局]

この評価シートを基に形を変えたアウトプットが出されて、庁で共有できるものをイメージしている。検証でもこの評価シートを活用し、より良い形にしていきたい。

[委員]

参加率はどのように計るのか。新規の参加者か。

[事務局]

10 お見込みのとおり。

[委員]

5段階評価の選択肢のことだが、「3」は「ふつう」にしたほうがよい。

[事務局]

承知した。

[委員]

「困難性」とかの評価部分はその判断に至った理由は備考に書くのか。なぜ、その評価になったのかは計画時、実施時に記載しておく必要はあると思う。

[議長]

20 このシートが積みあがった時に役に立たなければならない。評価指標の選び方は何かロジックがあるのか。

[事務局]

評価指標はアイデアベースで委託業者と検討したもので、精査はされていない可能性がある。

[議長]

一番知りたいのは、消防署でターゲットを絞り、それに対応して狙いを定めて、訓練内容を企画して、働きかけや工夫して、その結果成功したかどうかを知りたい。

[委員]

シートを記録として残しておくならば、どのような訓練を実施したのかを残しておく必要がある。

30

[委員]

選択式にして選ぶようにするのもよいかもしれない。訓練種別のようなものに振り分ける。最終的に「参加意欲」や「実行力」の目標像とリンクするかもしれない。文字だけでなく、データとして扱えるようにした方がよい。

[事務局]

「困難性」などは、主観によって左右される項目なので判断が難しい。

[議長]

全部記述式にするのは難しいか。

[事務局]

難しいかもしれない。記述しきれない担当者が出てくる可能性がある。

40

[議長]

備考欄が最後にあるが、これだと記述してもらえない可能性がある。そのため、個々の項目に備考欄を設けた方がよい。思い入れを書きやすい。また、実施した結果次への課題を残すようにする。実施者として、このような意図をもって工夫したがうまくいったかどうか評

価して、よかった、悪かった、改善点や実施してみて初めて分かったことなど発展性があると思う。

[委員]

実施時の部分は、「訓練項目別の評価」かもしれない。プルダウンなどで選べる形にすれば、やりやすいと思う。工夫の余地はある。

[議長]

ポイントとしては、何のために評価するのかということと評価シートで書かれたデータをどのように活用していくのかの2点だと思う。シートを書いた消防署と本人へのフィードバックという話であればエクセルにしなくても、訓練を考えるきっかけを与えることができさえすれば十分かもしれない。根本の部分を少し整理してその上で、項目を挙げていく方がよい。

10

(4) 閉会